

ICT時代の社会的文脈のなかでの教授学

Pedagogy in a Framework of Societal Context in ICT Age

西之園 晴夫

Haruo NISHINOSONO

佛教大学

Bukkyo University

あらまし: 教育システム情報学会 30 周年記念全国大会へ、ようこそ。当地、北陸地域、石川県は、歴史的な名所が数多くあり、温泉があり、美味しい食べものや飲みものが豊富にあります。8月25日～27日の3日間の全国大会では、研究交流を深めると共に、石川県を十分に楽しんでいただければ幸いです。

キーワード: 学習コンテンツデザイン, オントロジー, インフォームド・ユース

1. はじめに

従来、情報通信技術 ICT についてはそれを進歩させることが社会の発展を意味していた。さらに ICT を教育に活用することが教育効果を高めるものと期待されていた。しかし ICT が社会に広く普及するにしたがって、闇に隠れていた部分が誰の目にもさらされるようになり、不法な行為や犯罪がネット上で行われるようになって、バラ色の未来を約束するものでないことが実感されるようになっていく。インターネットや e-Learning が明るい未来を約束するものであるということは、すでに神話となっている。

ICT を教育に導入することは、たとえそれが高価であり、最新であり、マルチメディアであったとしても、それだけでは免罪符にならない。その導入によってなにを変えようとしているのか、なにを継承しようとしているのかを明らかにする必要がある。それは現在さまざまな教育改革が進行しており、その改革でも望ましいものもあれば時代に逆行しているものもあるからである。

従来のわが国の教授学は、欧米の思想を輸入するかあるいは科学技術の進歩に呼応することであった。教育学にみられた欧米追随は論外としても、科学技術の進歩にともなう近代化路線は、国民に広く無条件で受け入れるものではなく、学生のアナウンスからインターネットがブラックホール、落とし穴、便利であるが恐ろしいものと見られていることは注目すべきであろう。21世紀に実現すべき価値についてのコンセンサスはなお不透明なところがあるが、情報通信技術の教育的活用についての研究も、どのように説得性をもたせるかが重要である。

2. 情報社会の変動性、多様性、格差拡大

価値観の多様化は、一方では規制からの開放を促して自由化をもたらしていると同時に、もう一方では安定した生活をも脅かしつつある。変動が激しく経済格差が拡大しがちな情報社会にあっては、失業、リストラ、フリーターそしてニートなどの問題は、わが国だけの問題ではなく、あらゆる国が当面している問題である。競争原理の導入は強者には多くのチャンスを提供するが、敗者にはますます意欲を殺ぐ効果を及ぼしかねない。「No. 1 より Only 1」という若者の感覚は、自らの存在を他人との比較ではなく、自らの見出した存在感に落ち着きを見出すという決意であろう。欧州連合が推進している m-Learning プロジェクトもその対象を16才から24才に焦点化しているが、対象は失業者、ホームレス、不本意な就業者としている。また欧州委員会 EC が主導する Leonardo プロジェクトには自律的学習を推進することによって学ぶ意欲を回復して社会への積極的な参加を期待している。

ところで学習意欲の喪失が起こっている原因は、これまでの学校が前提としてきた教育の考えかたに再考を迫るものである。現行の教育政策の根底にある考え方として

教育目標、教育内容を重視した展開
明治期以来の国家による啓蒙的発想
習熟者が教え未習熟者が習うという知識伝達
産業育成、科学技術振興に期待
学力世界一

などが国策として重視され、教師を中心として推進されてきた。しかし、このような視点とは異なった考え方がある。

進学を目指す受験のための学習

変動社会における生活権としての学習

専門職レベルの維持のための学習

問題解決と知識創造, 企業における組織学習

など個人のニーズを基本とする学習である。

e-Learning の導入は国家主導で推進されているが, 現実には進学塾や学習塾, 企業などでの個人のニーズに牽引される ICT の活用が先行している。ICT の活用も一人ひとりの学習への欲求に基盤を置くことの重要性を示している。学校教育においては, 教師のニーズに対応するような ICT の活用が不可欠であろう。

3. 自律協調学習の意義

わが国におけるニートの増加について, その原因を明らかにすることは情報社会における教授学の責務であろう。情報過多と飽食の時代に起こっている労働意欲の喪失は, 一方では従来の教育政策では及ばなかった現象であり, もう一方では教育学が扱ってこなかった領域でもある。ニートへの対策はいまのところ就業促進という

参考文献

[ADL 03] SCORM Version 1.3 Application profile Working Draft1.0, Advanced Learning Initiative, 2003/3.

[林 03a] 林 雄介, 山崎龍太郎, 池田 満, 溝口理一郎: “オントロジーアウェアな学習コンテンツ設計環境”, 情報処理学会論文誌, Vol. 44, No.1, pp. 195-208, 2003.

[林 03b] 林 雄介, 池田 満, 溝口理一郎: “学習コンテンツデザインへのオントロジー工学的アプローチ - 学習支援と学習コンテンツデザイン支援 -”, 教育システム情報学会 研究報告, Vol. 18, No.1, pp. 69-76, 2003.

[堀内 03] 堀内淑子, 田中信也: “インストラクショナルデザイン技法 UNIKIDS の適用とツールの開発”, 教育システム情報学会 研究報告, Vol. 18, No.1, pp. 39-44, 2003.